

投稿

初冬の夕暮れに架かる北十字星

大西浩次（長野工業高等専門学校）

初冬の夕暮れ、西からやや北寄りの空に、明るい3つの星を見つける事が出来るでしょう。そう、夏の大三角です。もう冬なのに夏の三角とは少し妙な気がします。しかし、この星たち、夕暮れの時間帯に南中するのは9月中旬で、以降次第に西空に移って行きますが、同時に、夕暮れの時間帯も早くなっていくので、年末の空でも見る事が出来るのです。

試しに、はくちょう座「デネブ」の薄明終了時の高度変化を図1に示して見ましょう。これから判るように、「デネブ」の高度が最も高くなるのは10月下旬です。また、グラフの傾きを見ると、秋分の頃が最も小さい。この頃、日没（薄明終了時間）の時間変化が最も大きく、毎日早くなっていくので、夕暮れ時での高度の上昇率が小さくなるのです。さらに、この傾向は、日没が最も早くなる12月上旬まで続きます。その後、日没時刻が遅くなるにつれ、高度の降下率が上昇するのです。このように、日没時間の変化が、「見える星座」の期間を変えているのです。そういえば、夕暮れ時の春の星座が見える時期が短いのは、春の日没時間が遅れてゆく効果が効いているからだろう。

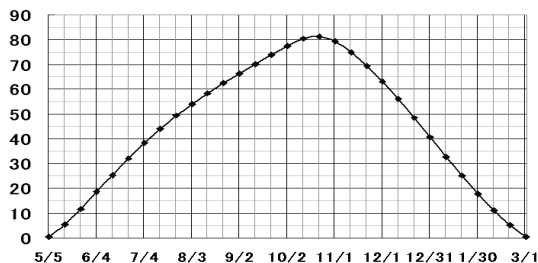


図1 デネブの薄明終了時の高度変化
横軸は月日、縦軸はデネブの高度(°)。

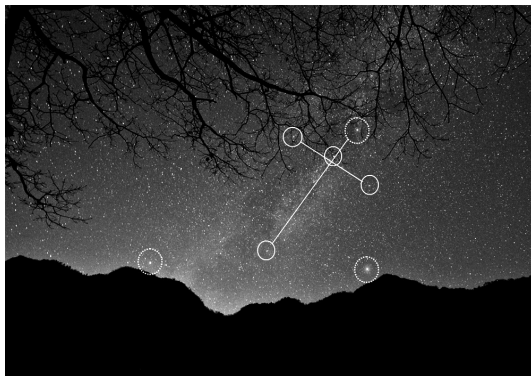


図2 北十字星と夏の大三角(表紙写真より)

ところで、「はくちょう座」が沈むとき、その星の並びは、大きな十字となって見えます。特に、緯度の高いヨーロッパでは、十字が水平線に立って沈むように見えます。この様子から、北十字星と呼ばれます。ちょうど、クリスマス頃の夕暮れの空に沈む「はくちょう座」を、キリストの十字架と重ね合わせているのでしょう。

ところで、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」をご存じでしょう。主人公のジョバンニが銀河鉄道に乗り込む銀河ステーションは、はくちょう座に在ります。そこから、天の川に沿って、はくちょう座、さそり座、ケンタウルス座を通して、天上といわれるサザンクロス(南十字星)まで行く物語です。ちょうど、天の川の中を2つの十字架が繋いでいます。この北十字星が北西の空に沈み、すっかり暗くなるころ、東の空にオリオン座が昇って来ます。まさに、冬の到来を告げる星座です。

大西浩次